



Sustainable Society Study (SSS) 1st Year High School



2022年4月23日 SSS(高1)授業「Introduction」

資料：ワークシート1-1

文部科学省の委託事業であるWWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校となり3年目を迎えました。同志社大学等と協働して新しいカリキュラム開発を行い、国内外の連携校とともに取り組んでいきます。プログラムのテーマはSGHで取り組んできた「環境問題」から発展させ、環境に配慮した理想の街、住みたい街の探求をテーマに「まちづくり」としました。今日は、高校1年生の必修科目「SSS(Sustainable Society Study)」初回の講座です。この講座では未来を考える指標として「SDGs」を用い、「SDGs」の視点をもって街のあるべき姿を考えていきたいと思います。このプログラムでは2年生「SSR(Sustainable Society Research)」、3年生では選択科目「SSD(Sustainable Society Design)」として展開され、興味を持った生徒には3年間を通じて共通したテーマで学びを深めていくことができます。

●多様な科目の教員によるチームティーチング

グローバル化が進み、多様な社会における問題解決にあたって答えは1つではありません。この講座でも、多様な角度から問題にアプローチします。そこで、さまざまな科目の教員が関わり1つの講座を受け持つというスタイルを取っていることも大きな特徴です。

【教員の紹介 一住んでみたいまちとその魅力から】

A組担当 坂下淳一教諭(理科)

アムステルダム：美しい水辺の生活、快適な自転車移動

京都市：小さすぎず大きすぎずほどよいサイズ、山・川も中心部から近く適度な都会感



B組担当 吉田恵都子教諭(技術家庭科)

リヨン：海の近く、ゆったりとした生活、気候が良い、食べ物がおいしい、ヴァカンスの地

別府：温泉のまち、ノスタルジックな雰囲気、観光地ではない地元の温泉、大学街でアカデミックな住民の移住も増えている



C組担当 北川浩司教諭(芸術科)

シアトル：多くの一流企業・カフェの発祥の地、なぜという好奇心を掻き立てられる

京田辺市：生まれも育ちも就職も生粋の京田辺市民！



D組担当 朴元惘怜教諭(宗教科)

ロンドン：歴史ある立派な教会が街中に点在、公共交通機関の充実、Musicalなど文化的な面も充実

新宿：いろいろな人と出会う場所、何でもある、多くの刺激、まちを考えるうえで学び多い



E組担当 帖佐香織教諭（社会科）

パリ：街全体の雰囲気が美しい、都会でありつつ噴水や公園など憩いの場が多い、日常に美術館・音楽・カフェなど日常に素敵な場面が溢れている

神戸・横浜：港町、異文化の雰囲気



F 松野翔太教諭（情報科）

シンガポール：都会、公共交通機関が整備されている、都会でありながらその長い歴史を感じられる

高田馬場：教育機関が豊富、アカデミックな雰囲気、文京区は人気のエリア

教員の住みたいと考える街はそれぞれ違います。どのような街に住みたいかということは、人によって違うことがここからもわかります。SDGsの指標として、「誰一人取り残さないこと」があります。そして17ある目標の11に「住み続けられるまちづくりを」があることを知ってほしいと思います。良い街とは、考えていくときに直感的な要素だけではなく、説得力を持つ裏付けがあることも必要です。

●この講座で身に付けて欲しいアカデミックスキル

問題の分析 analysis

調査 research

考える・批判的な思考 critical thinking

話し合う・相談する discussion

まとめる summarization

発表する presentation, report

これらを使い論理的な思考を行っていきます。直感的ひらめきと組み合わせたり、「なるほど!」「それはすごい!」となるはずです。ホールに全員が集まったの授業の形態も今日が初めてだったと思います。この講座では、こうして全員でホールにて、各教室に分かれてのグループワーク等、そして学校の外に出てフィールドワークなど、様々な授業形態を予定しています。それぞれの場面で、それぞれが果たせる役割を思う存分発揮して、どんどん前向きにクラスに参加して欲しいと思います。

他の授業とはまた違った、目標に向かって、それぞれの多様な生活体験や経験から思う存分意見を交わし、協力する、同志社国際高校ならではの学びの時間にしていきましょう。

2022年4月30日 SSS(高1)授業「SDGsについて」

資料：ワークシート 1-2/パワーポイント

SDGsという言葉は近年よく耳にするようになり、皆さんの中にも意識をしている人もいるかもしれません。今回の講座ではこの SDGs がどのように採択され現在まで至っているのか、その概要を学んでおきたいと思います。

●SDGsとは

Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標

●●SDGsの歴史

【MDGs Millennium Development Goals ミレニアム開発目標】

2000年に開催された国際連合ミレニアムサミットにおいて国連ミレニアム宣言が採択され、翌年にミレニアム開発目標(MDGs)が策定されました。世界が、世界の課題(主に開発途上国の問題)を解決するため、2015年までの期限付き、具体的な数値目標、達成度の確認を含む共通の目標に向かって協力して動き出します。

－MDGsの掲げる8つの目標－

- 目標1 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2 初等教育の完全普及の達成
- 目標3 ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4 乳幼児死亡率の削減
- 目標5 妊産婦の健康の改善
- 目標6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- 目標7 環境の持続可能性確保
- 目標8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

－MDGsの掲げる8つの目標の達成度チェック－

- 目標1 極度の貧困は大幅に減少。1990年に開発途上国の約半数が1日1.25ドル未満で生活していたがその割合は14%まで低下
- 目標2 過去15年間で初等教育純就学率が85%から91%に
- 目標3 過去20年間で90%以上の国で女性国会議員が増加
- 目標4 世界全体の幼児死亡数が1270万人から600万人
- 目標6 HIVの新たな感染者は2000年から13年で40%低下
- 目標7 改良された飲料水源の利用者は76%から91%に改善
- 目標8 先進国からのODAは15年間で66%増加

【ミレニアム開発報告】

MDGsは期限を定めた測定可能な8つの目標を掲げた工程表に具体化され、このかつてない取り組みが計り知れない成果をもたらしました。

【新たなアジェンダとして】

MDGsによる多くの成功の陰で、最も脆弱な人びとが置き去りにされていることも確認されま

した。進展は一様ではなく、大きな格差が残っていました。

例えば・・・根強く残る男女不平等、極度の貧困、気候変動と環境悪化、紛争による難民の増加など

【SDGs Sustainable Development Coals 持続可能な開発目標】

2015年、MDGs 開発アジェンダの節目の年に開催された国際連合持続可能な開発サミットにおいて、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を全会一致で採択。人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかかげました。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標(Goals)と169のTarget からなる持続可能な開発目標(SDGs)です。MDGs との大きな違いは、先進国だけでなく開発途上国も一丸となり目標に向かい行動すること。そしてMDGs の反省点から「誰ひとり取り残さない」ということをスローガンに掲げています。



こうして、国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択したアジェンダをもとに、2015年から2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くすことになりました。

●●●目標 1 1 「住み続けられるまちづくりを」

SDGs の 17 の目標の中で、私たちの生活にも密接に関わってくるのが目標 1 1 の「住み続けられるまちづくりを」です。今後、都市で生活する人が大幅に増えることが予想され、それに伴って様々な課題が出てくることが考えられます。SDGs の目標 1 1 では 1 から 7 までのターゲットが設定されています。今後、本校のWWLプログラムでは、この目標 1 1 を取り上げていきます。

●●●●まとめ

今日は、世界の共通の認識であるさまざまな問題について、国連が中心となり、世界でどのような取り組みがされているのかを皆さんと振り返りました。いろいろな課題があり、解決法もひとつではありません。私たち一人ひとりが問題を解決できる当事者である意識をもって、皆で学び、思考し、議論して豊かな世界をつくっていければと思います。



2022年5月14日 SSS(高1)授業「まちづくりとは」

資料：ワークシート 1-3/パワーポイント

●「まちづくり」とは何か

「身近な住環境を改善」し、「地域の魅力や活力を高める」持続的な活動のこと。

ハード面：交通計画、施設計画、防災計画など

ソフト面：人々の交わり、サービス

「まちづくり」とは、豊かな生活をするうえで必要な取り組み全てを含む言葉



●●「まちづくり」に誰がかかわっているのか

行政、住民、専門家、などなどさまざまな関わり方があります。

●●●「まちづくり」にはどのような知識が必要で、どの分野の知識を使って考えればいいのでしょうか。それぞれの人が関わることもできますとも言えます。みなさんはどのように関わっていけばよいのでしょうか。

SDGsの目標#11「住み続けられるまちづくりを」のターゲット

- 11-1 2030年までに、すべての人が、住むのに十分で安全な家に、安い値段で住むことができ、基本的なサービスが使えるようにし、都市の貧しい人びとが住む地域（スラム）の状況をよくする。
- 11-2 2030年までに、女性や子ども、障害のある人、お年寄りなど、弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段を使えるようにする。
- 11-3 2030年までに、だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。すべての国で、だれもが参加できる形で持続可能なまちづくりを計画し実行できるような力を高める。
- 11-4 世界の文化遺産や自然遺産を保護し、保っていくための努力を強化する。
- 11-5 2030年までに、貧しい人びとや、特に弱い立場にある人びとを守ることを考えて、水害などの災害によって命を失う人や被害を受ける人の数を大きく減らす。世界の国内総生産（GDP）に対して災害が直接もたらす経済的な損害を大きく減らす。
- 11-6 2030年までに、大気の水質やごみの処理などに特に注意をはらうなどして、都市に住む人（一人当たり）が環境に与える影響を減らす。
- 11-7 2030年までに、特に女性や子ども、お年寄りや障がいのある人などをふくめて、だれもが、安全で使いやすい緑地や公共の場所を使えるようにする。

目標のターゲットからも、あらゆる分野の知識がまちづくりに関わっていることがわかります。現在、世界の半分以上の人口が都市に暮らしています。

●●●●さまざまな視点から

SSSを担当する教員が「まちづくり」に関してどのようなことに興味を持っているか1人1人話を聞いてみましょう。

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」北川教諭

私はずっと京田辺に住んでいますが、京都市に行く理由を考えてみました。街ではいろいろなことが企画されています。このイベントも、普段は立ち入れない建物や、何気ない商店街での意外性のある展示など、街を興味深く探索しながらアートもとても新鮮な気持ちで堪能できるおもしろい企画でした。

「北アルプス国際芸術祭」吉田教諭

持続可能な地域づくりを目指し、3年に1度開催される国際芸術祭です。北アルプスの大自然を背景にアート作品が展示され、感動しました。思わず2020年には2度訪れたほどです。この地域の魅力を存分に楽しむことができ、来場者の半数を超える人が県外から。その結果、大きな地域への経済波及効果も及ぼしています。

『「助けて」といえる国へ 著：奥田知志、茂木健一郎』 朴元教諭

この書籍では、「助けてと言えない、言わせない社会」の在り方について、牧師である奥田知志氏が代表をつとめるNPO法人「北九州ホームレス支援機構」での活動を通して見つめなおしています。「強い人が弱い人を助ける」ではなく「弱い人同士が共に生きる」という視点はまちづくりにも必要ではないかと気付かされます。

『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか 著：ヴァンソン藤井由実』 帖佐教諭

私も訪れたフランスのストラスブールは地方都市であるのに活気があります。この書籍では、 ترامや街の建物が大きく関わっていることに改めて気付くことができます。まさに「豊かな生活」の考え方を実践。まちづくりのダイナミズムの軸として交通を位置づけ、さまざまな政策について論じられていて参考になります。

『シビックプライド 著：伊藤香織、紫牟田伸子 他』 坂下教諭

八尾で割れないガラスを開発したゴムメーカーは、話題になり受賞も、そして従業員は自分の会社や製品に誇りを持ち働き方も変わったそうです。この本では「誇りに思う」ことが一つのキーワード、「I amsterdam」というキャッチコピーに代表されるアムステルダムなど、シビックプライドが育つさまざまな都市の取り組みを紹介しています。

『神山プロジェクト 未来の働き方を実験する 著：篠原 匡』松野教諭

この本は、徳島の電車も通らない山中の集落で、9社のベンチャー企業のオフィスを持ち、移住希望者が増加し続けるまでに至る経緯が紹介されています。私も訪ねましたが、ぜひ一度行って欲しい場所です。一般的にはPCで仕事をする時、さあ山に行こうとは思いませんよね。どのような働きかけがあったのか興味深いです。

6人の教員も「まちづくり」に対しての視点はさまざまです。そしてまちづくりは、さまざまな視点から取り組まれていることもわかりました。そこで、実際に第一線でまちづくりに関わる専門的な知見を持つ方を講師にお招きする予定です。

2022年5月28日 SSS(高1)授業「大阪公立大学 武田重昭先生の講演について」

資料：ワークシート 1-4

●武田先生の研究内容について

人生と都市を魅力的にする「パブリックライフ」について研究をされている大阪公立大学の武田重昭先生です。



大阪公立大学 生命環境科学研究科 緑地環境科学分野

武田 重昭先生の研究内容について

住宅団地やニュータウン等の計画的に整備された集住環境におけるオープンスペースをはじめとする都市の緑地空間を対象として、その空間形態とそこでの生活行動や運営の仕組みとの関係性を分析し、保全・継承すべき緑地環境の特質を明らかにするとともに社会状況の変化に対応した活用の方法や生活者の新しい関わり方によるマネジメント手法について研究を行っています。 (大阪公立大学ホームページより)

人生と都市を魅力的にする「パブリックライフ」について研究しています。UR 都市機構、兵庫県立人と自然の博物館を経て、現職。共著書に『シビックプライド』『いま、都市をつくる仕事』『都市を変える水辺アクション』ほか。共訳書に『パブリックライフ学入門』 (武田先生の Twitter アカウントより)

自分だけが心地よく魅力を感じているのではなく、街全体が魅力的、そこに住む皆が心地よく生活できること、それがパブリックライフです。武田先生のご研究の中にはまちづくりに関するこういったワクワクする Keyword が登場します。

オープンスペース；開かれた、誰でも使うことのできる空間

マネジメント手法；運営の方法

パブリックライフ；公共の生活、プライベートライフの対概念

シビックプライド；市民としての誇り

●●なぜ武田先生に講演にきていただくのか

街や都市についての、新しい視点について、学んでもらいたいと考えています。

問い：魅力的なまちとはどのようなまち？住みやすいまちとは違う？

武田先生が共著者、共訳者のお1人でもある次に紹介する2冊の本を読んでも「魅力的な都市はどのような都市か？」についての考察を読み取ることができます。

★魅力的な都市とはどのような都市か

『シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする』
(宣伝会議、2008年)

例えばヨーロッパは、小さな都市もそれぞれ特色があり、また趣があります。住民が関心を持って関わっていて、まちに愛着を持っています。この著書の中では、そのプロセスに注目し、都市の再生政策を進める上で市民の街づくりに関するコミュニケーションがとても重要なこと、そしてそれがあって初めてより多くの市民の共感のもとに計画が進み、人々の都市に対する愛着が生まれることについて解説されています。



★パブリックライフが注目されるようになった歴史的背景

『パブリックライフ学入門』(鹿島出版会、2016年)

今から60年も前に、NYの都市計画についてジェイン・ジェイコブスが味気ない空虚な未来都市像を批判したことが当時は革命的であったこと、そして現在では都市を使う人々の姿が政治家やプランナーに見えるようになり、都市住民＝パブリックライフが活性化するよう、積極的に計画することができます。かつて軽視されたパブリックライフは、21世紀に入り今では都市の魅力に大きな影響を与える確立した分野になりました。



●●●この大変貴重な機会に、武田先生からどのようなことを学ぶのか、そしてどのような準備をして臨めば良いでしょうか。

本日の課題：先生の研究などの中で興味を持った内容または質問したい内容をまとめてください。

せっかくなので、ここでしかできない質問、武田先生にしか聞けない質問がいいですね！

【参考リンク】

<https://sotonoba.place/sotonobaradio11> ソトノバラジオ

https://book.gakugei-pub.co.jp/campaign/covid-19_takeda/ コロナ関連特別寄稿

「大きな時間のなかで考える都市の未来：6つの変化の兆しから」 武田重昭

<https://citylabtokyo.jp/2020/09/18/200920-eventreport-aiba-takeda/> City Lab Tokyo 大阪市郊外のまちづくりのこれから (饗庭伸さんとの対談について簡単な紹介)

問い：あなた自身は豊かなパブリックライフをデザインすると聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？またパブリックライフが充実した街に住みたいと思いますか？

自由に意見をまとめてみることで、イメージがつかみやすくなり、講演を聴いても理解が深まると思います。

○まとめ

人によって理想の街は違うもの。そして、イメージするパブリックライフも多様です。でもそういった人達が自分のまちづくりのために有意義に意見を交わし、街を創ることができれば楽しそうだなとも思いませんか？住む人達が積極的に意見を交わすことができる街の仕組みや制度が整っていけばとても理想的だと言えそうです。それでは実際に武田先生のお話を伺うのを楽しみにしっかり準備をしましょう。講演は6月11日の予定です。

2022年6月4日 SSS(高1)授業「街の住みやすさとは」

資料：ワークシート 1-5、資料「世界の住みよい都市に学ぶ」

●大阪公立大学 准教授 武田重昭先生講演の質問について

前回の課題であった「先生への質問を考えてまとめる」について、担当教員全員で読みました。質問は事前に武田先生にお届けしようと考えています。そこで、これはよくないという例とよく考えられたよい例をいくつかあげて、一緒に考えてみたいと思います。

よくない質問の例

【専門家である講演者に対してふさわしくない？】

- ・一番魅力的なまちは何ですか？
- ・街をきれいにするために取り組むべきこと
- ・この授業は将来何に役立つか

【専門家である講演者に対して失礼ではないか？】

- ・人生を振り返ってどう思うか
- ・なぜ今の仕事をしようと思ったか
- ・今までの人生で印象的だったことは何ですか

【非常識ではないか？】

- ・何の教科の先生ですか
- ・好きなスポーツは何ですか
- ・先生の名前の由来は何ですか

【講演を聴く姿勢がまったくない？】

- ・特になし
- ・何をしていますか
- ・初めて知ったことがあってびっくり

これらは、講演のために時間をかけ準備をして来てくださる講演者の先生に対して失礼だと感じるものです。質問のマナーについては初歩的なところですが、大切なことは先生の研究内容を事前に把握し、そのうえでこの実際にお越しいただける貴重な機会にここでしか聞くことのできない疑問を先生にお伺いしたいと思います。

また一方では、しっかりと考えられた個性のある質問も多くありました。その例も紹介して、まずその差を感じてみてください。そして自分の質問についても改めて振り返って考えてみて欲しいと思います。

よく考えられていた質問の例

【基本的な考え方について】

- ・すべての人にとって魅力的な街は実現できるか、何から考えればよいか。
 - ・住みやすい街を研究して、考え方はどのように変わりましたか。
- ・さまざまな研究をする際に、大切にしていることや自分のルールはありますか。

【事例を知りたい】

- ・先生が考える、取り入れたほうが良いが日本にはまだない街のルールや仕組みがあれば教えてください。
- ・よいまちづくりによって、その街の雰囲気や人々はどう変わったのか。
 - ・他にはないような試みで成功している街があれば教えてください。
- ・先生の離散という考え方に共感しました。人付き合いが苦手でも地域とうまく関われる方法で成功した例を教えてください。

【展望や考え方】

- ・先生が思う、自分の人生も魅力的になるような街はどのような街ですか。
 - ・魅力的な街を継続させるためにどうすべきだと考えますか。
- ・何を魅力的と思うかは人により違うと思います。どのように考えますか。
- ・ソトノバラジオで急激な盛り上がりより少しずつ街を良くしていく方がよいとおっしゃっていましたが共感できません。急激に盛り上げて持続できるようにするのがベストではないでしょうか。
- ・「シビックプライド」では、ヨーロッパの都市は魅力や個性のアピールに努めているとありますが、比較して日本の街の個性は薄いのでしょうか。
- ・オンラインでも人とつながり、パブリックライフをおくれるようになった今、プライベートライフをおくることの大切さが薄れていっているように感じますか？

●住みやすい街について一緒に考えてみましょう

ディズニーランドが好きな人も多いと思いますが、ずっと住みたいと思う人もいますでしょうか。ハウステンボスはどうでしょう。

訪ねると住み続けるというのは、やはり違うと思います。来週講演をしていただく武田先生は「緑地計画」「パブリックライフ」などを研究されているのですが、まず今日は「住みやすい街」を展望してみようと思います。

人によって優先順位は様々ですが、いくつかの条件の下に住む場所を決めると思います。

○住みよさランキング 2021 総合評価トップ 50 (東洋経済新報社 2022 年)

「利便性」「安心度」「快適度」「裕福度」の4つの視点から、信憑性ある20の統計データから算出し、項目ごとの順位と総合順位を出した表があります。

【関西の総合上位】想像した結果と比べてどうでしょう？

大阪市：安心度は801位/812区と下位だが、他の3項目で健闘、利便性は8位→総合1位

草津市：大阪市と同じく安心度は724位と下位だが、他の3項目で高順位→総合2位

葛城市：大阪市草津市とは対照的に利便度は641位ながら、安心度、快適度共に上位→総合3位

○住みたい街ランキング (リクルート住まいカンパニーSUUMO 2022)

実際に住みたいと思う街を人々のアンケートから算出した表です。ランキングから、自分の街が上位だとどこか誇らしい気持ちになり、下位または入っていないと少し残念な気持ちになります。興味深いのは、上の統計から算出された住みよさランキングとの違いです。実際に人々が感じる住みたい街と統計から算出される住みやすい街は一概に共通していないことに気付きます。

上位を占める、横浜、吉祥寺、大宮など関東の街について、関東に詳しい松野教諭の解説を聞きました。この3都市については、交通の便が良いこと、そして首都圏の発展とともに経済的な発展があったこと、若い世代が多く文化の発信地になっていることが結果につながっているとのことでした。また4位以下も10位までは関東が独占、山手線に面し利便性や商店が多い街が多くみられます。

●世界の住みよい都市に学ぶ「住みよさ」と「住みやすさ」の間

自治体国際化協会による住みやすい都市ランキングを紹介します。さまざまなファクターがこういったランキングをしています。比較的わかりやすいので紹介します。

英国エコノミスト誌の調査部門であるエコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)による「世界で最も住みやすい都市ランキング」では毎年「住みやすさ」を世界の140都市を対象に、5つのカテゴリの30項目について数値化し、順位をつけています。どのような指標が用いられているのかに注目してみましょう。

5つのカテゴリ

安定性 (25%)・医療 (20%)・文化環境 (25%)・教育 (10%)・インフラ (20%)

オセアニア、北米、欧州が上位に挙がっています。調査対象の140都市には、日本からは

東京、大阪しか含まれていません。正確さの面からは抜け落ちている部分があるのは事実です。また駐在者を対象としたランキングでは、あくまで駐在者を派遣するにあたっての指標となっているところもあります。「住みやすさ」はその地域への容易な入りやすさ、そして「住みよさ」は現に住んでいる住民の満足度などだといえます。

●ヘルシンキの魅力とフィンランドの子育てに関する制度について

いくつか紹介されているランキング上位の都市で、ヘルシンキについて吉田教諭に解説してもらいました。世界で最も住みやすい都市ランキングにノミネートされている他、国単位では国際 NGO セーブ・ザ・チルドレンの母の日レポートの母親指標においてフィンランドは1位に選ばれています。

・ヘルシンキの子育て支援

ネウボラというまちの子育て支援では、妊婦の検診は無料、手厚い専門家のサポートがあります。担当制であるため、同じ担当者が妊娠期から子供が小学生になるまで継続的にサポートします。

・充実した社会保障

母親手当として育児関連グッズ約50点もの配布があります。また育児による休業制度は産前50日から、そして同時に取得できる父親休業制度は3週間取得可能です。これらの親休業は有給です。父親休業の取得率が8割を超えていて、日本での1割強と比較してもその普及率が高いことがわかります。これでも日本は12年で約10倍に増えた結果です。



こういったフィンランド特有の充実した子育て支援をはじめ、教育制度、男女平等政策が住みやすさの大きな理由となっていて、高い税率においても国民はその税金がしっかり還元されていると感じることができていることは満足感につながっています。

問い：住みたいまち、住みやすいまちなどありましたか。このSSSが始まった当初に、答えた住みたい街から変化はありましたか。

住みやすさは人それぞれだということもわかりましたが、ランキングやその分析から、自分の住んでいる街を思い返し、将来住む街を想像して、「住みやすいまち」について改めて考える機会になりました。来週はいよいよ武田重昭先生のお話を伺います。これまでの講座や感じている疑問を振り返り、それぞれがしっかりと準備をしましょう。

2022年6月11日 SSS(高1)講演「大阪公立大学 武田重昭先生講演『持続可能なまちをつくるために』」

資料：ワークシート 1-6、資料「持続可能なまちをつくるために」

今日は大阪府立大学の武田重昭先生を実際にお招きし貴重なお話を伺う機会を持ちました。武田先生は緑地計画学（Landscape Architecture）を専門に研究され、多くのまちづくりの実例を通してシビックプライドの構築についても大変詳しく書籍や多くの講演等でも発信を続けておられています。今日のために、事前の生徒たちの質問に目を通していただき、できるだけそれに答えようと講演をご準備くださいました。

司会進行はWWL委員の生徒たちが担当しました。また WWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校として、本日の講座に連携校である聖母女学院高校の24名の生徒さんをお招きし、学びを共有することができました。

●武田重昭先生の講演より

問い①：理想のまちってどんなまちですか？

その街を考えるにあたってその街が魅力的なまちか、ということが一番大切なポイントだと思います。魅力的なまちの風景はどのようにできているのでしょうか。どんなに都市化が進んでも、自然とともに生きているという実感、その自然的要素に、ベンチや歩道、照明等の人工的な要素が合わさることで空間の魅力が生ま



れています。でも大切なのは、空間だけではなく、そこでくつろいだり楽しんだりする人々の生活が風景として見えて初めて総合的に魅力的だと感じられるのです。そして人々がそこにいない時でも、こういったコミュニティの存在や安心感、賑わいが周りに及ぼす地域経済への波及など、よい効果が広がっていきます。

存在効果（そこにその空間があるだけで発揮される空間の魅力）

利用効果（人々が利用することで生まれる生活の魅力）

媒体効果（空間を利用することで周辺にもどんどん波及していく）

⇒どんな素敵な空間があっても使わなければ意味がない、私たちにはまちを使う想像力が求められています。私たちの暮らしぶりそのものがまちの魅力を創っているのです。

問い②：パブリックライフで私たちの暮らしは豊かになりますか？

公共空間を利用することをパブリックライフと言います。日本には昔からもともと四季折々の屋内外でのパブリックライフが存在しています。さらに海外に行くと、映画の一場面のような素敵なパブリックライフを過ごす人たちをよく見かけます。実はパブリックライフは1人でも、明日からでも、変えることができます。パブリックライフが地域を変えた実例として、徳島県の神山町を紹介します。人口減少が進んでいた集落が、その美しく豊かな自然環境を改めて見直し、Wi-Fi環境を整えることで、その環境の中パソコンを使って仕事をするという生活スタイルを発信し、若者が集まり移住してくるようになったのです。



パブリックライフとは、
公共空間で他者と直接的・間接的に関わりを持ちながら過ごす社会的な生活のこと。
誰もが気軽に他者とふれあい、刺激を受け、都市のムードを共感するといった経験は、都市の持つ本質的な魅力そのものである。

⇒パブリックライフを育むのはひと。パブリックライフを盛り上げるには人が大切です。

海外で、公園を利用した芸術やスポーツイベントをよく見かけます。これらは習慣として頻繁に日常的に行われています。日本ではこういったイベントは年一回の大規模イベントであることが多く、「賑わい」を重視し過ぎているのが今の日本でもあります。今日より明日が少しよくなるといったような、賑わい至上主義を超えたまちの持続性を高めることが大切です。

10,000人の1回より
大規模行事としてのイベント
100人の100回を
日常的な出来事としてのイベント

賑わいを作るのは簡単、1人であっても豊かに上質な時間を過ごす空間を作ることの方が難しいと思いませんか。集団の喚起ではなく、そこにいるそれぞれが豊かな時間を過ごしつつ、他者を思いやるような関係性が生まれる空間が魅力的だと考えます。

ソーシャルディスタンスで、距離をとりながらもそれぞれの人が思い思いに楽しむといったことでは、コロナ禍で得たパブリックライフの芽生えでもあったのではと思います。

協働 VS 共同

Collaboration から Common へ

チームで力を合わせ1つの目標に向かうよりも、それぞれの人が思い思いに行動しながらも他者に対する連帯感や一体感があり一緒にいる価値を生む時代が来ている

⇒「離散的空間」

自立した人間であるとともに、連帯する人間でもあるような集合としての共同体（原 広司）つまり、身体的な関わりを持たなくても、同じ時間と空間を共有することによって、他者と連帯するという、新しいパブリックライフの魅力が生まれています。

問い③：なぜシビックプライドが必要なんですか？

シビックプライドを考えると、「なぜ市民がまちづくりに関わる必要があるのか」が答えになると思います。日本の現状として、人口の推移は減少の一途をたどっています。それは、皆さんの活躍する時代は税収が減り、新しい建物は作れない、既存の建物の管理も難しいということを意味します。そこで行政は、市民に「ラストワンマイル」の施策として、最も現場に近いところで市民に協力を得てきめの細かいサービスを実行し、自分たちで課題を解決してもらおうとしています。

国民・住民にも地域への貢献を求める社会になることで、与えられることへの幸福感から自己実現で誰かに何かを与えることで幸福感を得る時代へと変わりつつあります。

シビックプライドとは、

市民が都市に対して持つ誇りや愛着のこと。

日本で言う郷土愛とはニュアンスが異なり、自分はこの都市を構成する一員であり、都市をより良い場所にするために関わっているという意識を伴う。

つまり、ある種の当事者意識に基づく自負心といえる。

まちをつくるのは自分たち！

- ・大阪城を造ったのは市民（全額市民の寄付で再建されている）
- ・市民吹田サッカースタジアムは市民や企業の寄付で建てられた
- ・熊本城の復興への市民をはじめとした個人からの多くの寄付



都市を共感するアクティビティ、理解する情報のデザイン、アイデンティティを感じるシンボル、体験する空間のデザインを個別ではなく関連付け、1つのメッセージとして結びつける必要性から、コミュニケーションポイント（都市と人とのコミュニケーションをデザインする都市情報センター）はヨーロッパのまちではどこにでもある組織です。

シビックプライドを育てるキャンペーン

1. you are your city (バーギンガム)
2. I LOVE NY (ニューヨーク)
3. BARCELONA BATEGA! (バルセロナ)
4. I amsterdam (アムステルダム)

特に、I amsterdam は、私自身が都市なんだという意識からより強い関わりを感じる

⇒本当のシビックプライドが必要な理由として思うことは、幸福な暮らしをするために、まちをつくるのは自分なんだという気概、そしてまちをつくる一員なんだと思えるかどうかです。

問い④：多様な価値観をどうやってまちに活かすことができますか？

いろいろな人がいて、そのたくさんの個性を1つのまちに反映させていくことは可能でしょうか。例えば、「みんなの公園」を例に見てみると、「～禁止」「～はしないで」と注意書きをよく見かけませんか。実はみんなのものだからと規制するのではなく、使うわたし達の立場に立った公園の運営をすることで「私たちの公園」になります。

ブラジリアの例：1人の都市計画課と1人の建築家が自分たちの理想によってつくったまち→専門家による機能的なまちのはずが、住民にとって住み良い心地良いものではなかった。

計画家は「可能性を持った環境を提供することしかできない」

ハーバート・J・ガンズ

村は住む人のほんの僅かな気持ちから、美しくもまづくもあるものだ

柳田国男（『美しき村』より）

ある一つの景観はそれを見る人の教養と文化と職業を通じはじめて意義を持ち得る
に過ぎない

サン・テグジュベリ（『人間の土地』より）

⇒It's our space! これからのまちづくりは誰かにつくってもらうのではなく、自分たちがつくる。まちをつくるプロは可能性を持った空間は提供できるが、実際に価値が生まれるかどうかはそこを使う人達にゆだねられています。

問い⑤：いま、私たちにできることは何ですか？

高校生だってまちをつくる一員です。誰かに与えてもらう、してもらおうということだけでなく、自分たちの生活の中でできることがあるのではないかと考えてもらったことが嬉しいです。

屋外での映画祭を紹介しましたが、映画を楽しんでいる人たちも多くいる一方で、その人たちが楽しそうにしているのを見て楽しんでいる人たち、つまり映画の主催側、市民ボランティアの人たちがいます。こういう人たちをイギリスでは、Parkforce と呼ばれ、その活動を広げています。それでは、こういう活動には強いリーダーシップがいるかといえば、そうではありません。いろいろなジャンルのいろいろな緩い団体が沢山どんどんつながりあって行くことの方が実は強く良い行動となっています。



リーダーシップ より
先頭に立ってチームを引っ張る
フォロワーシップ を
チーム全体のパフォーマンスを向上する

みなさんもこういう1つの役割を担うことが十分にできます！

このまちで生きる自分が好きだ！と思ってもらえたらと思います。そのためにも、自分を知り、好きな自分や嫌いな自分、いろいろな自分を好きになることもとても大切なことです。

そういう考え方で都市とも付き合うと、もっとまちが好きになると思います。そして、将来の子供たちが、こんなところに住みたい、そう感じられるようなまち、社会になるためには自分はどうすればよいか、考えて行動してもらえたら嬉しいです。

まちの魅力となり持続可能なまちをつくるのはあなたです！

●講演を聴き終えて

武田先生は、とてもわかりやすく丁寧に生徒たちの1つ1つの質問に対して、事例や写真、研究や書物の紹介を通して、先生の研究に基づく考え方を説明し答えてくださいました。最後に、「正解のあることを学ぶことも大切、でも実は正解がないことの方がむしろ大事なことが多く、大学ではそういう学びが待っています。」とおっしゃっていました。現状やコロナ禍での不安な経験から気持ちが沈むことも多い中、この経験が私たちの豊かな生活のための大事な気付きとなり、皆で再考し実践していくきっかけでもあると教えていただけたことは希望となり、自分たちが関わっていくという当事者意識を再認することとなりました。

2022年6月18日 SSS(高1)授業「武田重昭先生講演のふりかえり」

資料：ワークシート 1-7、資料「プレゼンテーションのための情報デザイン」

先週は、大阪公立大学の武田重昭先生にお話を伺い、まちづくりについて考察し、これから提案につなげていきたい生徒たちにとって、大変貴重な学びの機会となりました。今日は、講演後に生徒たちに提出してもらったコメントシートのいくつかを紹介しながら、その講演を振り返りたいと思います。後半は、情報科の松野教諭から、今後の提案やプレゼンテーションの機会に役立てるスライド作りの基本について情報デザインの基礎を学びます。

●生徒のコメントから

「このまちで生きる私たちが好きだ」という気持ちを大切にしながら、自分がまちの一員なのではなく、自分自身がまちであるということ意識したいと思いました。

それを利用することによって魅力的な空間がより発展しているのだと今日話を聞いて気付きました。これからは、私たちがそのようなネットワークの一員であることを自覚して、まちをつくるのは自分だという意識をもって過ごしたいと思います。

様々な発見があり、自分が新たに探究したいことができました。様々なことに疑問を持ち、まちを、未来をつくる一員として、社会に参加していきたいと思います。

「みんなのまち」ではなく「私たちのまち」という考え方を知って納得しました。私もその言葉を胸に留め、何か行動を起こしたいと思いました。

住みやすいまちとは、施設や環境、行事などだけではなく、人々の生活など込みでまちの魅力ということ初めて知り少し感動しました。とても興味深くて、まちに対する考えを改めさせてくれる機会を与えてくれたので、とても感謝しています。

今思えば僕が前に住んでいたまちを誇りに思う気持ちがなかったのは先生の仰っていた弱いコミュニティを大切にせず、強いコミュニティに頼りきって他人任せの意識があったからかもしれないと感じました。これからは自分自身がまちの一部だという自覚を持ち、弱いコミュニティを大切にしていきたいと思います。

私が住んでいたアメリカでは、様々なバックグラウンドを持った人々が同じ社会で生きていて、近所の人との距離が近く、コミュニケーションが取れていたなと思いました。帰国後感じていた違和感は、自分がその地域の一員であるという意識の低さが理由ではないかと思いました。

生徒たちのコメントからは、今まで意識を向けていなかったことへの気づき、新しい発見の連続、他人事だと思っていたことが自分事であったという認識、これからの過ごし方の意識の変化など、講演をとっても興味深く聞き、それぞれが自分なりに納得して何か行動につなげようという意識がととても伝わってくるものが多くみられました。

改めて、武田先生に心から感謝申し上げます。

次のステップとして、まちの良いところを見つけるにはどのようにすればよいか、また自分の住んでいる（住んでいた）まちの素敵などところについて考えてみたいと思います。

●プレゼンテーションのための情報デザイン

今後、まちの魅力を発見、伝えるためのプレゼンテーションをしてもらいます。その際にも、今後の必ず必要となるものとしても、スライドの作り方というのは大切なスキルです。



1 誰のためのプレゼンか

プレゼンテーションを行う際に、誰に対して、何のために、ということは大きなポイントです。その上で、スライドの作成は、視覚、聴覚、に訴えるものとして大変効果的です。

2 スライド作りの基本

・ 1スライド1メッセージ

簡潔に、紛らわしさ、迷いはなるべく省く

3 スライドデザインの基本

・ わかりやすさの3要素（簡潔さ/統一感/見やすさ）

・ 構造を視覚的に表現

まとめ方の工夫

見やすいということは伝わりやすさ（フォント、色、大きさ、コントラスト、余白）

・ 要素の配置

目線の動きは左から右、上から下、大項目から小項目へ

・ カラーユニバーサルデザイン

色認識の個人差に配慮

スライドを作成する際には、本当にそれが必要かということと目的に合っているかということの再認識が必要です。今後のプレゼンテーションだけでなく、大学生や社会人になっても大切になってくるプレゼンテーションの資料作り、ぜひ大いに活用してください。

2022年7月2日 SSS(高1)授業「住んでいる（住んでいた）まちの魅力」

資料：ワークシート 1-8

いよいよ夏休み直前、1学期最後の講座です。今日は先週のまちの魅力を伝えるためのスライド作りについて、いくつかの実例を見ながら視点の違う2人の教員の解説を聞くことで理解を深めます。そして実際のスライド制作に向けてのイメージを膨らませましょう。

●夏休みの宿題

『自分の住んでいる（住んでいた）まちの魅力を伝えるスライドを1枚作成しましょう』

住んでみてどのような魅力があるのか、住んでいる人ならではの視点でまちの魅力を伝えるスライドにしてください。まちの紹介など含まれますが、観光紹介ではない点に注意してください。

また夏休み明けには、これまでに取り組んだワークシートを提出してもらいます。

●スライドを作成するにあたって

昨年度のSSSの生徒たちも同じ課題に取り組みました。そこで、生徒や教員が同じ課題で作成した昨年のいくつかのスライドを紹介します。作る人によってスライドの個性は様々です。そこでスライドに対するいくつかのアドバイスを聞いて、自分のスライド制作に活かしてもらいたと思います。今回は、情報科の松野教諭、美術科の北川教諭の2人によるそれぞれの観点からの楽しい解説となりました。2人の協調するポイントは共通していますが、昨年2人がそれぞれの視点で修正したのを見ると、それぞれの個性が見られました。

【ケース1 ミネソタ】

松野教諭・北川教諭

写真に文字が重なり見辛くなってしまうので、BOXを使い整理



北川教諭

【ケース2 新宿】

松野教諭

重要度で、黄色の色使いを他の色も交えて変える

良い面悪い面を○×の視覚的効果で明白に
主要な項目を中央に写真を加えてよりイメージを鮮明に

【ケース3 パリ】

松野教諭

中心線、三分割でバランス
段落の文字のつながりを見直し、大きさも揃える



【ケース4 メルボルン】

北川教諭

足りない情報や写真を加えてさらに整理された印象に
アピールポイントの強調

【ケース5 サンノゼ】

松野教諭

3色国旗のような画面の縦3分割レイアウトに
文字を真ん中に配置、背景は白でスッキリと



【その他の印象的なスライド】



- ・余白をうまく使い、余裕を感じさせられる（左 京田辺）
 - ・背景の色を活かし格好よく、そして方言をフレーズに個性を活かす（中央 福岡）
 - ・文字だけではない迫力で思いっきり自由に、まちの個性を感じさせるもの（右 成都）
- など他にもその人にしかできない表現を感じる個性的なスライドがありました。

スライド（一枚絵）で伝えたいことは何か、誰に伝えたいのか、その街の特徴や魅力が伝

わかるか、そしてその他プラス α の要素はあるかを意識しましょう。正解は決してありませんがこの講座で学んだ基本的な要点を押さえて、自分だけの1枚を作って欲しいと思います。この夏は、周りを見渡して自分の過ごすまちに少し意識を傾け、今までに感じなかった部分にもぜひ興味を持ってみてください。皆さん有意義な夏休みを過ごしてください！

2022年9月3日 SSS(高1)授業「研究について」

資料：ワークシート 2-1,2-1-2

2学期の SSS 第一回目の講座です。今日は、これからこの講座においても様々なリサーチを行っていくうえで、研究について考えていきたいと思います。研究とは、知の生産です。知りたいことに値する問いをみつけ、その問いに対して根拠のはっきりとした答えを導くことです。日ごろ、私たちは誰かの研究によって生み出された知識を消費（活用）することがほとんどです。自分なりの省察や発想、アイデア等に基づいて新たな知見を創造するという事は、具体的にどのようなことでしょうか。帖佐教諭による解説でより理解を深めていきます。

●研究とは

全ての分野において、研究をする上では、基礎研究、応用研究 開発研究というプロセスを積み重ねることになります。

【基礎研究】

現象や観察した事実に関して新しい知識を得るため、あるいは理論を作り出すためなどに、実用性を考慮せずに行われる研究。

例：iPS 細胞研究、イベルメクチンにつながるエバーメクチンの発見

【応用研究】

基礎研究によって発見された知識等を利用して、特定の目標を定めて実用化の可能性を確かめる研究、および既に実用化されている方法に関して、新たな応用方法を探索する研究。

【開発研究】

基礎研究、応用研究、および実際の経験から得た知識の利用、新しい素材、装置、製品、システム、工程等の導入または既存のものの改良をねらいとする研究開発。



【研究のプロセス】

研究対象の明確化



研究対象の調査・分析



新しい知見の創造



研究成果

自分が何を研究するのか、明確にする必要があります。そのうえで状況を把握したり原因をさぐるなど、ボトルネックは何かというような分析を行います。問題をどのように解決できるのか。独自性のある考えをまとめること、ここが個性の見せ所です。研究の成果は発表しなければ伝わりません。様々な工夫を凝らしどのようにすれば正しく伝わるか、伝えるか重要です。

【フィールドワーク】
目的をはっきりさせる
↓
計画を立てる

ある調査対象について、実際に現地を音連れて訪れて、直接観察を行ったり、インタビューやアンケート調査、資料収集を行う調査方法。

事前の調査は済ませておく。また、特定の人に話を聞く場合は、アポイントを取り、その段階での質問内容を事前に送るなどまとめておけば効率的です。

以前の SSR でのフライブルク、コペンハーゲンへのフィールドワークでも、実際に行って、見て、話しを聞くことは大変有意義でした。観光とは違い目的を持ち、計画的に実行することが大切です。皆さんにもぜひフィールドワークの楽しさを味わってほしいと思います。

●まちづくりの実践地域の紹介

今回、この SSS に携わる教員たちが、フィールドワークの候補地でもあるいくつかのまちづくりの実践地域を訪れました。今後の講座では、規模の違った、また課題も違う、それぞれのまちづくりの取り組みについて報告を聞いてもらい、一緒に学びたいと思います。

- 1 千葉/柏の葉「課題解決を目指し、公・民・学連携で目指すスマートシティ」
- 2 富山/富山市「歩いて暮らせるライフスタイルを可能にするコンパクトシティ (SDGs 未来都市)」
- 3 東京都/渋谷区「1日 330 万人もの乗降客が行き交う世界有数の巨大ターミナルの 100 年に一度の再開発」
- 4 滋賀県/近江八幡市「SDGs への取り組みで目指す、人がつながり未来をつむぐまち」
- 5 兵庫県/淡路島「移住者による豊かな地域資源の再発見を通じた、働くことと生きることがつながるコミュニティ」
- 6 徳島県/神山町「移住者の多様な働き方によって生まれる、全員参加型コミュニティ」

それぞれのまちがそれぞれの課題と向き合い、地域の特性を活かした問題解決に取り組んでいます。「豊かなまち」が経済的に豊かかどうかはここでは問題でないことに気が付きます。まちづくりは、地域をどううまく治めて、その地域の人々の幸せな暮らしをどう守るかということ。地域の課題を乗り越えて人々が豊かな生活を送ることが目的だということを再度考慮し、「豊かさ」がどのような要素から成り立っているのか改めて考えてみたいと思います。

2022年9月10日SSS(高1)授業「まちづくりプレゼンテーション -各クラス」

資料：ワークシート 2-2

夏休みの課題に「街を紹介する PDF (一枚絵) 作成」がありました。今日、皆さんには各クラスでそれぞれ 1 人 30 秒の持ち時間で制作した PDF の補足説明としてプレゼンテーションをしてもらいます。その結果、各クラスから 3 名を選出して後日学年全体で発表してもらおうと思っています。

【評価のポイント】

評価するのも皆さんです！

- ・評価用紙の項目を中心にメモを取り、できのよい PDF を選びます。
今回は PDF の選考なので、PDF がよくないのに、話の内容で評価を逆転させてはいけません。
- ・評価のポイントは、下記のことが中心です。
 - ◆ 地図上の位置、人口、街の規模など基本的な情報が入っていたか。
 - ◆ 情報がバランスよく組み込まれ、街を全体として理解し、イメージすることができたか。

●生徒たちのプレゼンテーション

【プレゼンテーションにあった地域】

宇治市、生駒市、ボイジー市、ニュージャージー州、アニャン、伊丹市、上海、香港、ブランフォード、木津川市、刈谷市、枚方市、バンコク、ニューヘイブン、ソウル、サンホセ、草津市、西宮市、大阪市、宝塚市、奈良市、バナナ、イーストチェスター、バンクーバー、など

帰国子女と国内生が混在する同志社国際らしい多様な地域の紹介となり、それぞれに個性あふれた PDF と合わせて、視聴する側も評価のとても難しい楽しいプレゼンテーションの時間となりました。クラス代表を 3 人決定し、いよいよ全体での発表がまた楽しみです。

2022年10月8日SSS(高1)授業「まちづくりプレゼンテーション -クラス代表」

資料：ワークシート 2-3

各クラスで全員がプレゼンテーションをした「まちについて」から、今日は各クラスで投票により選ばれた代表によるプレゼンテーションを行います。夏休みの課題として作成したスライド（一枚絵）を紹介して補足をします。今回はあくまでもスライドを評価するものです。たくさんのスライドを見て、発表を聞くことは、今後の参考にもなります。普段自分のまちを紹介する機会はないので、改めてまちと向き合ったのではないのでしょうか。取り組みを通じて、改めて自分のまちをより好きになったという感想も多く聞かれました。

● F組代表



3つに絞った特徴をわかりやすく記憶に残りやすく工夫しました。特に歴史好きには改めて巡ってみたいと興味がわく写真やわかりやすい解説



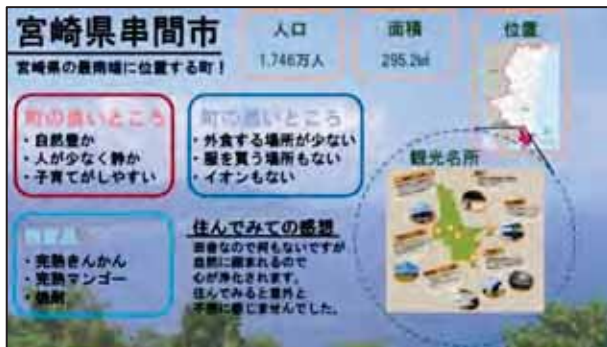
利便性のよいベッドタウンとして、また犯罪率の低さ、豊かな自然、地域活動の充実を季節感が取り入れられた現地の美しい秋の背景で表現しました。



ノー消費税や女性の働きやすさを最も強調して文字のフォント等を変えることで工夫しました。香港カラーの赤を基調としてにぎやかさも伝えました。



● E組代表



誰も知らない町として、悪いところも紹介。観光名所を伝えながら、住んでみて悩みなし！爽やかな海の背景と共に心が浄化されるといった住民としての感想も加えました。



一番好きな自然を基調に表現、重要度で文字の濃さや位置を工夫しました。住み良さを見て楽しくわかりやすいように四角や丸を組み合わせています。



ユーロ圏の中心、大都市、有数の観光名所、また歴史的な場所と現代的な場所が混在する魅力を写真やドイツカラー、わかりやすい配置で伝えました。



● D組代表



気候に恵まれ大変住みやすく、世界一のデジタル教育の発達が一番に伝わることで遠くからもわかりやすい工夫をしました。





自然豊かな特徴を意識して緑を基調に、6つの街に囲まれている利便性の良さを表現するために6角形を使用。街の背景等見やすい配置に工夫しています。



住みたい街 no.1 (SUMO 関西版) をアピール、文字数は少なく色彩も同系色4色にまとめ、住みよく美しい街を一目でイメージできるよう心掛けました。



●C 組代表



世界一大きい市、世界で2番目に寒い街、インパクトを持って表現しつつ、文章や写真を見やすくわかりやすく丁寧に配置し伝えることを心掛けました。



住んでくれるならマイタカでもいいという強い印象のキャッチフレーズで興味を持ってもらえたと考えました。線や図形で区切りすっきりと整理された印象にしています。





南国特有の美しい海を伝えたくて、背景は自分でデザインしました。自分の地元ですが、住みやすさというよりも観光産業が盛んで、誇ることのできる自然を知ってもらいたいです。



カラーボックスに漢字一文字で街の特徴を一目で伝わりやすくデザインしています。高の原が万葉集から名前が付いたなど、歴史を感じさせる部分に注目して紹介しました。



● B組代表



住み良さをランキングを具体的に紹介伝わりやすくしました。利便性のほかに、魅力を3つに絞り住みたくなるまちのポイントしてわかりやすくをアピールしました。



公立学校の施設充実、人種の多様性、マンハッタンへの利便性の良さなど魅力を文章よりも写真や地図で伝えられるように工夫しました。背景はのどかさを表現しています。





ローカルマーケットは賑わい、国際展示場に世界から人が集まり、美しい自然といった3つの魅力をイラストでわかりやすく表現しました。配色や配置も工夫しています。

● A組代表



魅力の詰まったとかいなか、2020年の世界で魅力的なまちランキング1位をアピール。四季を楽しむ京都、たくさんの魅力を伝えるために写真や一文字漢字など様々な工夫をしました。



子ども連れの家族にとってどれほど住み良いかを伝えたいと思い、具体的なデータを入れて工夫しました。魅力をネットで検索しているかのようなデザインにもこだわりました。

まず色で洗練された都市のイメージが伝わるよう考えました。住みたい街ランキング上位の常連、国連本部を有する国際都市でありながらコンパクトで暮らしやすい部分を伝えたいと思いました。



生徒たちは感想や今後の参考になった部分をワークシートに記入していました。1年生でアドバイスを活かし0からこれだけのものを作り上げたことはすごいと感じました。